

### 1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

### 2. 受講学生

1回生：11名

幼年教育サブコース 6名

小学校サブコース 5名

### 3. 授業の工夫

(1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。

(2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

### 4. 授業評価の方法と結果

15回目授業（試験）日にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入させた。

5：たいへんそう思う（非常によい）

4：ややそう思う（よい）

3：どちらともいえない（ふつう）

2：あまりそう思わない（あまりよくない）

1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	4.7
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.8
重要なことを強調したか	4.9
プリントに沿った授業は理解を助けたか	5.0
授業への熱意・工夫が感じられたか	4.9
課題は有益なものだったか	4.9
考えが培われたり得るものがあったか	4.8
学問をする雰囲気は保たれていたか	4.8
教職に就くうえで有益だったか	4.8

### 5. 授業時間外学習

【課題1】4年間を見通した際、幼児教育の歴史を学ぶ機会が少ないので『児童中心主義の保育』（森上史朗著、教育出版、1984年、全7章、305頁）の各章の概要をまとめることを課し、学期末に提出させている。

【課題2】幼児教育に関する基礎的な用語や知識を習得させるため、毎授業時に4～7個の用語を指示し、次の授業時まで文献や辞書で調べた内容をレポートにまとめて提出させている。複数の辞書にあたること、辞書だけでなく概論書なども読み、その上で“自分の辞書”を作るつもりで、まとめるように指示している。

以下、授業時間外学習について、学生の感想の抜粋を掲載。

#### 【『児童中心主義の保育』の要約について】

- ・この本から学んだことは本当に多かった。
- ・気づくと夢中になって読んでいた。今まで生きてきた中で、こんなにも役立つ本はなかった。特に、橋詰と倉橋の部分に感動した。
- ・特に、倉橋惣三の考え方を学んで、「子どものために何かしたい」という純粋な愛情こそが保育の基本であるべきと気づいた。倉橋ほど、子どもを尊いものとし、子どもに愛情を注げる人はいないと思った。
- ・日本人が苦勞して今の保育にたどりついたと知れたことで、保育の可能性を感じた。目の前の子どもをよく見て、深い愛情をもって関わることで、子どもや親の人生をよりよいものにできる保育者になりたいと思った。

#### 【用語調べについて】

- ・調べたことが別の授業でも役立った。
- ・初めは本当にネガティブな気持ちでやっていったが、いろんな用語や考え方を知ることができ、今ではワクワクして取り組んでいる。

### 6. その他 授業の感想

・他の講義よりも「夢のための学び」「保育者になるための学び」という感じがした。いっそう、保育者になりたい気持ちが強くなった。